

新年あけましておめでとうございます

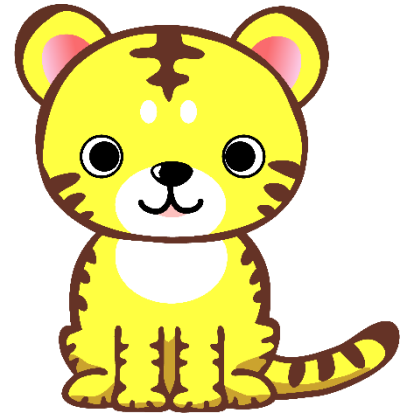
年末年始はいかがお過ごしでしたか。

年越しや年明けの過ごし方は、各家庭によって様々でしょう。我が家は元旦から初詣や親戚の家に行くことが多いため、お節料理を家で作らないのですよ。だから、私の結婚した娘も作りません。伝統とか文化ってこうやって途切れていくのだなと思いました。

一方、幼稚園は季節の行事や日本の文化を大事にします。年明けには、こま回し、凧あげ、はねつき、福笑い、かるた、双六などお正月遊びを経験してほしいと願い、準備しています。

なかなか家ではしなくなった遊びですが、幼稚園でぜひ楽しんでほしいと思います。

今年も『したい 知りたい やってみよう』がいっぱいの幼稚園を目指し、職員一同努力してまいります。保護者の皆様と共に、子どもたちの成長を願って歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



弁当のカップについて

本園ではこれまで、年長になるまでは弁当にカップは使わないようお願いをしてきました。食べやすさや弁当箱を空っぽにする満足感などを重視して、弁当箱には食材だけ入れていただいていたいました。

しかし、保護者から「カップがあった方が煮物など入れやすい。」「汁気のある物もカップがあれば安心。」などの御意見をいただきました。本園では年長になったら、小学校の給食に向けて、カップを使いおかつのバリエーションを増やしていくように進めてきました。しかし、保護者の声を受け、職員で検討した結果、どの学年でも必要があればカップは使ってよいことにしようときまりを見直しました。

幼稚園で弁当を食べているところを見ていると、やはり、カップはない方が食べやすいことには変わりありませんし、カップがなくても上手に工夫してお弁当を詰めてくださっています。保護者の方が、「この食材を入れるにはカップが必要。」と判断されたときは、お使いください。

現在の年長児はカップを使っていいのですが、見てみるとカップだらけの弁当や、おかつが増えずにフルーツやデザート的な物が増えてしまった弁当も時々あります。あくまでも、おかつのバリエーションを増やすために必要な場合にのみカップを使うとお考え下さい。

大切なのは、子どもにとって楽しい弁当の時間であること、自分の力でできるだけ残さずに食べきれることです。お子様の発達段階に応じて、おかつの種類や量や、箸での食べやすさを考えて弁当作りをお願いいたします。